

主要農作物の生産振興について

令和6年8月
農林水産部農産園芸課

目次

I 農作物生産の概況 4

II 農作物の生産振興方策と取組 6

- 1 野菜
- 2 水稲・麦・大豆
- 3 果樹・茶
- 4 花き
- 5 農業機械・生産資材対策

III スマート農業の推進 23

- 1 「ひょうごスマート農業推進方針」の推進
- 2 土地利用型農業のスマート農業技術の普及・定着
- 3 施設園芸における環境制御技術の普及・拡大



ひょうご農林水産ビジョン2030施策体系表における位置づけ

【めざす姿】

御食国ひょうご 令和の挑戦
 ↳都市近郊の立地を活かした農林水産業の
 基幹産業化と五国の持続的発展↳

【基本方向】

【基本方向1】
 基幹産業として持続的に
 発展する農林水産業の
 展開

【基本方向2】
 県民が安心して暮らせる
 活力ある地域の創出

【基本方向3】
 「農」の恵みによる健康
 で豊かな暮らしの充実

【推進項目】

- 1 スマート化による新しい農林水産業の実現
- 2 多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開
- 3 需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化
- 4 木材利用の拡大と資源循環型林業の推進
- 5 豊かな海と持続的な水産業の実現
- 6 農林水産物のブランド力強化と生産者所得の向上
- 7 食の安全を支える生産体制の確保
- 8 特色を活かした活力ある地域づくりの推進
- 9 農山漁村の防災・減災対策の推進
- 10 豊かな森づくりの推進
- 11 食と「農」に親しむ楽農生活の推進
- 12 「農」と多様な分野との連携強化
- 13 県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進

□ : 資料に掲載している施策項目

I 農作物生産の概況

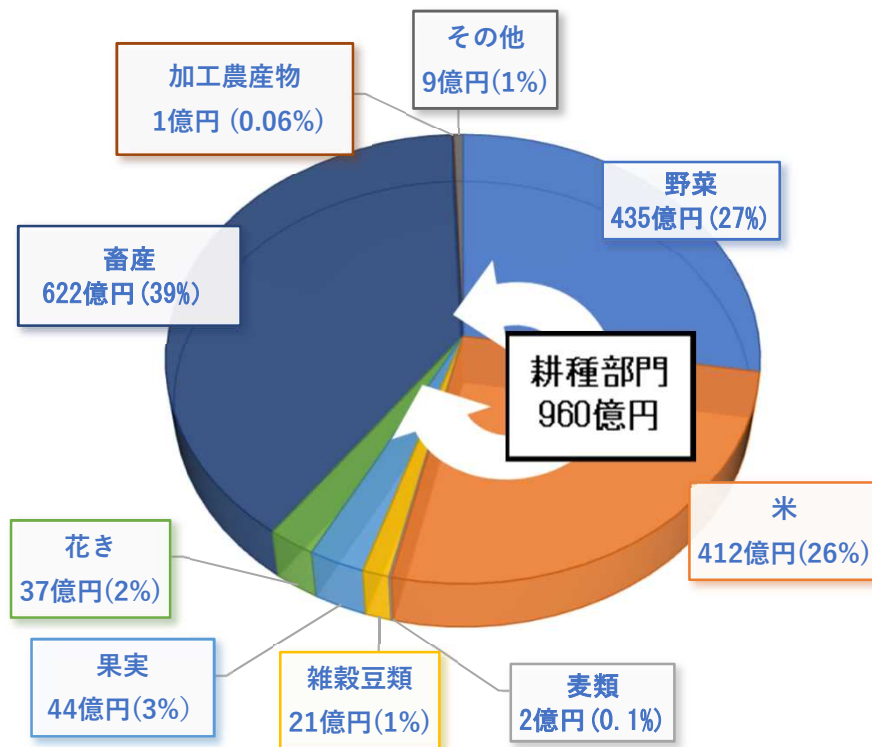
1 農業産出額

令和4年農業産出額は1,583億円。

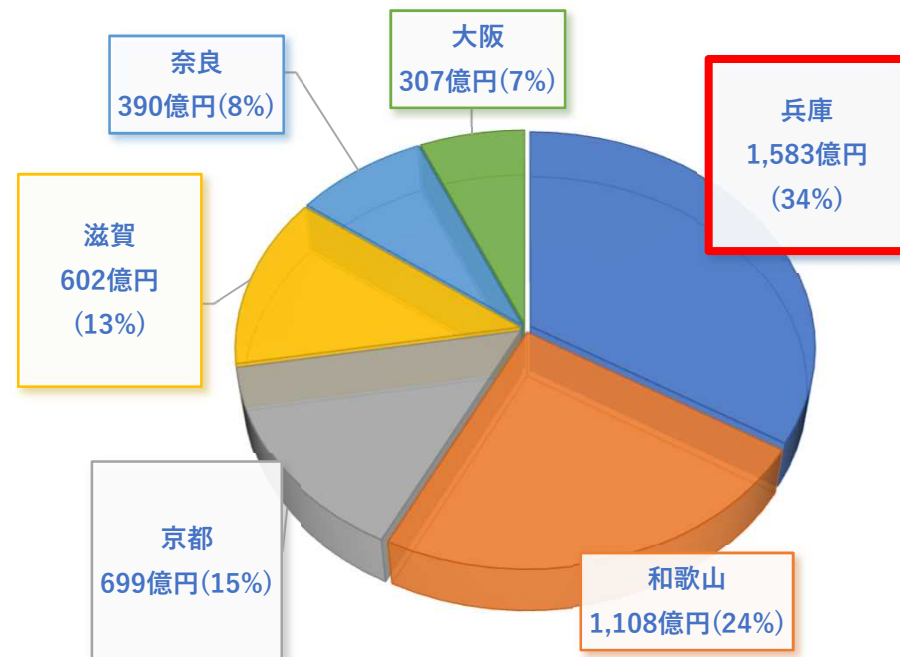
耕種部門が960億円（うち野菜435億円、米412億円）と農業産出額の約6割を占め、畜産とともに本県農業の主要部分を占める。

近畿6府県4,689億円の約3割を占めており、京阪神都市圏の食料生産基地として、重要な地位にある。

兵庫県の農業産出額（令和4年）1,583億円



近畿の農業産出額（令和4年）4,689億円



※農林水産統計（農林水産省調べ）

I 農作物生産の概況

2 全国順位上位の主な農産物

五国の多様な自然環境のもと、水稻や野菜など多彩な農産物が四季折々に生産。

とりわけ、酒米の「**山田錦**」、黒大豆の「**丹波黒**」の生産量が**全国1位**であるほか、「たまねぎ」、「レタス」、「いちじく」、「カーネーション」等は全国上位。

品目		生産量	全国シェア(%)	全国順位	主な産地
米	山田錦（酒米）	16,031 t	56.9	1	播磨
大豆	丹波黒（黒大豆）	1,051 t	38.4	1	丹波・播磨
野菜	たまねぎ	86,400 t	7.1	2	淡路
	レタス	24,200 t	4.4	6	淡路
	キャベツ	25,800 t	1.8	11	淡路・神戸
果樹	いちじく	1,064 t	11.6	4	神戸・淡路・阪神
	びわ	111 t	5.4	4	淡路
花き	カーネーション	17,400 千本	8.6	4	淡路
	花壇用苗物類	24,800 千鉢	4.5	6	神戸・播磨

※ 農林水産統計（農林水産省調べ）、米・大豆は農産園芸課調べ

※ 令和4年産。ただし、いちじく、カーネーション、花壇用苗物類は令和3年産。

II 農作物の生産振興方策と取組

都市近郊立地の優位性や、多様な自然環境に恵まれた本県の特性を最大限に活かした野菜等の生産振興を実施。

1 野菜

多様な販路・多彩な品目において、**安全安心で新鮮な野菜の生産拡大を支援。**
また、**県育成品種等の新たな産地づくりを推進。**

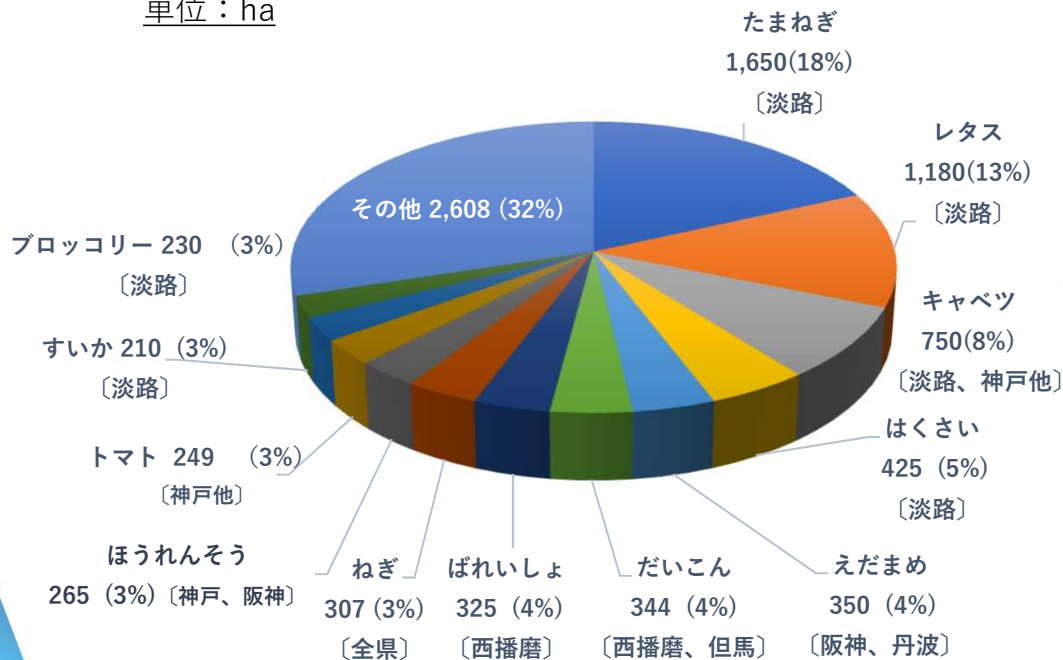


県育成品種（あまクイーン、ひかり姫、ひょうごエヌワン）

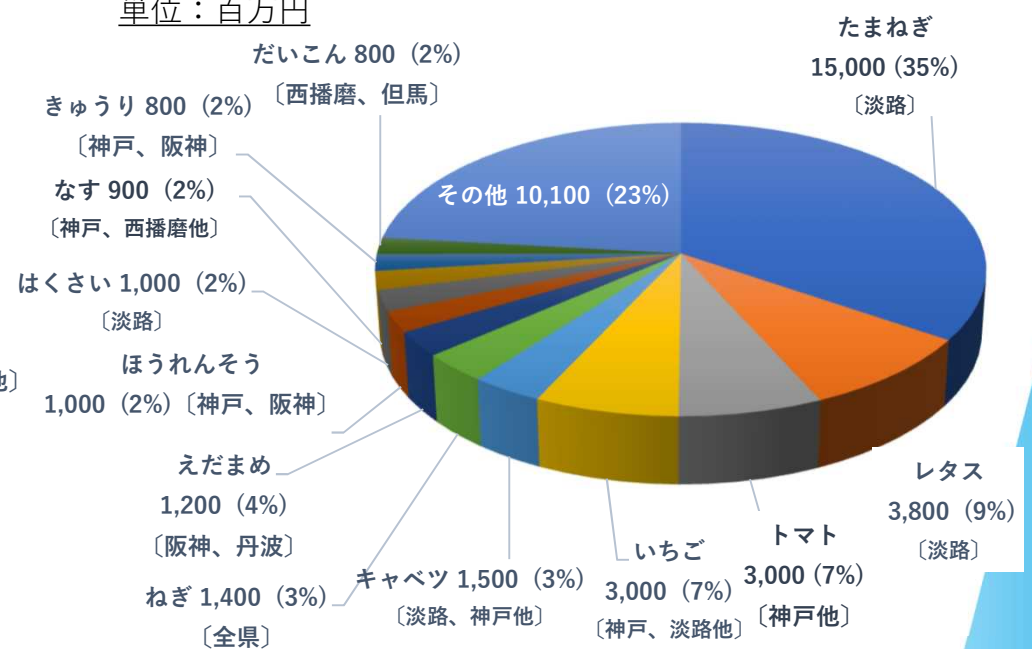
野菜作付面積(令和4年) 8,752ha

野菜産出額(令和4年) 43,500百万円

単位：ha



単位：百万円



※農林水産統計（農林水産省調べ・いも類含む）

II 農作物の生産振興方策と取組

(1) 県産野菜の安定供給に向けた国・県野菜指定産地の育成

地域における野菜生産の拡大・安定化のため生産機械・集出荷施設の導入や需給調整を行い、安定的かつ計画的に供給する野菜産地の育成に取り組んでいる。

ア 野菜指定産地制度※による産地づくり

(ア) 国野菜指定産地制度

大規模かつ主要な品目を生産している産地は、「国指定産地」として指定されており、本県では**10品目延べ21産地**が指定、**県産野菜出荷量の約63%を生産**。

(イ) 県野菜指定産地制度

国指定野菜以外の品目や「国指定産地」には満たない県内の主要な産地は、県が「県指定産地」として指定し、**12産地で延べ90品目**あり、**県産野菜出荷量の約6%を生産**。

イ 価格安定制度の活用による安定供給

国及び県の指定産地の対象品目において、**市場価格が一定基準を下回った際には、その差額を補填**し、生産者の再生産の支援と市場への安定供給に寄与。

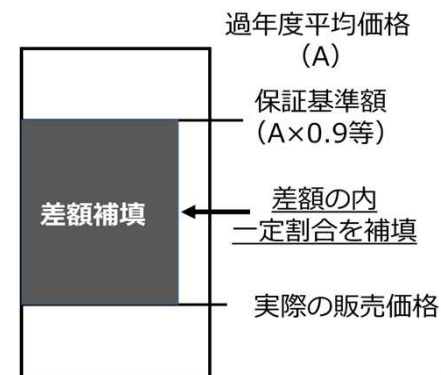
【R5実績】 補てん金交付額 348百万円

※ 野菜指定産地制度

一定規模以上の産地（品目）を国又は県が指定し、産地の育成を図る制度。
関連制度として、野菜の価格安定制度、指定産地向けの整備事業、災害補償金の交付を実施。



JAが導入した枝豆脱莢機（三田市）



差額補填のイメージ

II 農作物の生産振興方策と取組

(2) 新たな産地の育成

県育成品種の黒大豆枝豆「ひかり姫」、秋冬ネギ「ひょうごエヌワン」等の新品種を活用した産地づくりの取組を支援。

また、水稻中心の経営から野菜を組み入れた経営に転換を図る集落営農組織等の野菜生産の取組を支援し、産地の新たな担い手を育成。



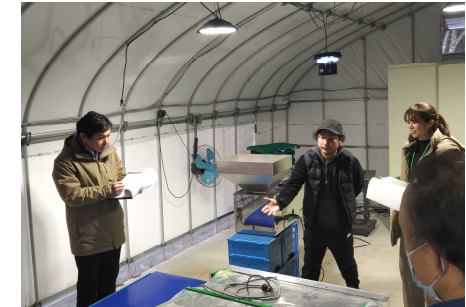
枝豆「ひかり姫」収穫イベント（加西市）

(3) GAP（農業生産工程管理）取組の推進

農業生産の各工程が、産地や農産物への信頼性の確保、農作業等の事故防止、環境への配慮等を踏まえた望ましい工程となるよう、**農業者自らが実施・記録・点検・評価等の各手法を持続的に改善していく取組を推進。**

【R 5実績】

- ・ 農業者研修会 2回 延べ135名 ・ G A P 指導員の育成 8名（R5.3月末累計65名）



GAP指導員育成のための
現地研修会（丹波篠山市）

(4) 県産野菜の消費拡大・認知度向上

県産野菜の魅力を量販店等の実需者や消費者に伝え、**県産野菜を選んでもらうための取組（産地と消費者が「価値」で結びつくバリューチェーンの構築）を推進。**



兵庫県野菜等をテーマにした
ランチセミナー（大阪市）

ア 実需者向け県産農産物の魅力発信

県産野菜の魅力を伝える取り組みとして、飲食店と連携した兵庫県野菜の紹介等を交えたランチセミナーや調理師学校の学生を対象とした県産野菜を用いた実習等を実施。

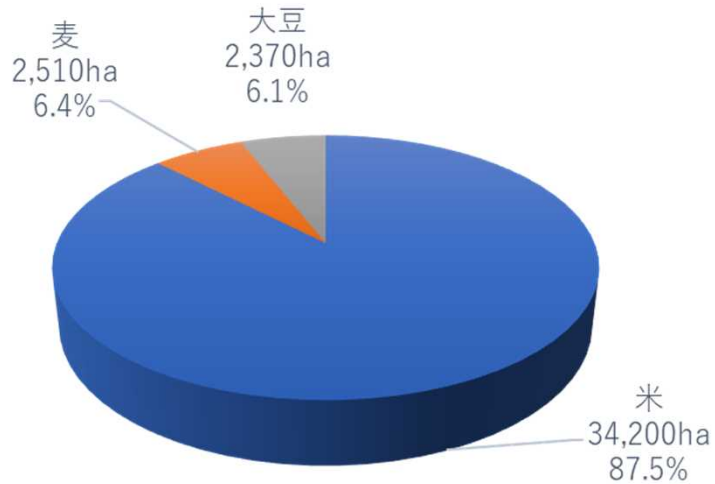
イ 消費者向け県産野菜フェアの開催

県産野菜の需要喚起のため、旬の野菜をテーマとし、レシピ提供による食べ方提案や、産地の生産者の紹介を交えた県産野菜フェアを量販店で実施。

II 農作物の生産振興方策と取組

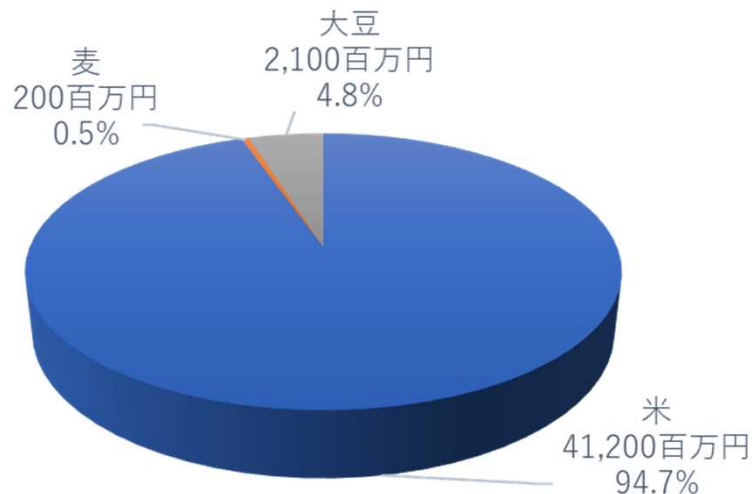
2 水稻・麦・大豆

作付面積（令和4年）合計 39,080ha



※農林水産統計（農林水産省調べ）

産出額（令和4年）合計 43,500百万円



※農林水産統計（農林水産省調べ）

(1) 水稻

本県農地の9割以上は水田であり、水稻栽培は農地の維持管理上も重要な役割。

主食用米の生産は、県民の消費量の約5割の状況である中、他県産に負けない**競争力のある兵庫米づくりを推進**。

ア 環境創造型農業を基本とした良食味米生産の拡大

土づくりや緑肥利用による化学肥料低減など環境創造型農業を基本としつつ、生育診断による適切な追肥施用、適正な水管理、適期刈取り等を奨励し、主食用米の良食味化及び安定生産を推進。

【おいしい米の目標値】

○外観が良い

1等米比率 80%以上

○食味が良い

白米中タンパク質含有率6.0%以下
(玄米中7.0%以下)
白米中アミロース含有率20%以下

イ 多様なニーズに対応した米生産の推進

加工用、業務用、学校給食用等の特定用途米に対して、実需者、生産者団体、行政等が連携して、多様なニーズに対応するとともに、外食産業等と結びついた業務用等多収性品種の安定生産技術の確立を推進。

II 農作物の生産振興方策と取組

ウ 温暖化等気象変動に対応した良食味米の安定生産

地球温暖化が進む中、水稻の白未熟粒の発生など品質の低下に対応するため、平成28年度からJAグループと県の共同研究により、**高温耐性があり、食味に優れた新品種**を、世代促進温室などを活用し、育種期間を短縮する育種方法（従来14年間→9年間）により育成。**第1弾の新品種を令和7年に販売開始予定**。

ひょうごの水稲オリジナル品種の育成と全体計画

育種目標：高温耐性・良食味品種

	H28~R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
キヌヒカリ代替	研究開発・選抜等			一般栽培						
ヒノヒカリ代替	研究開発・選抜等						一般栽培			
コシヒカリ代替	研究開発・選抜等									一般栽培

① オリジナル品種の育成と選抜

有望な系統の選抜、現地での適応性試験実施

(1) 優良系統の選抜

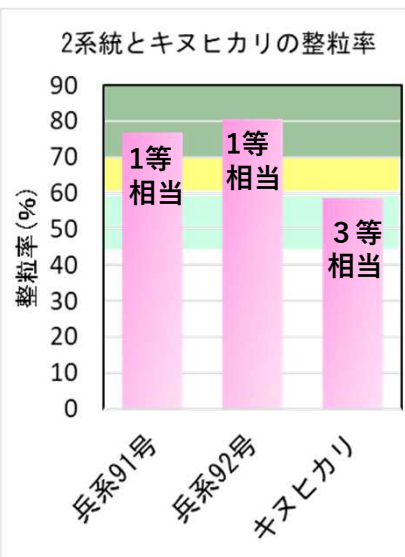
品質・食味分析やガラス温室を利用した高温耐性検定を実施。

(2) 現地適応性の試験

令和5年度は、県内9カ所で3系統の現地試験ほを設け、米卸業者と食味評価を実施。

【R5実績】

3系統→2系統に選抜



② オリジナル品種の普及推進活動

生産・販売体制の確立と情報発信（プロモーション）

(1) 生産・販売体制の確立

令和7年度デビューに向けて令和6年3月に県、JAグループ、関係団体で構成する構成するひょうごの水稲オリジナル品種普及推進協議会を設立。

(2) ブランドプロモーション

令和6年度は、協議会ホームページの立ち上げ、**名称発表（令和6年10月予定）を契機としたオリジナル品種PRを推進**。



プロモーション用の田植え作業の撮影風景

II 農作物の生産振興方策と取組

(2) 酒米（酒造好適米）

本県の酒米出荷量は全国の約3割、山田錦の生産量は全国の約6割を占めるなど、本県は日本一の酒米産地である。ブランド力の更なる強化に向け、県酒米振興会をはじめ、JAグループ等の関係機関が一体となり、**高温障害等に対応した品質・収量向上技術の確立や県産酒米の需要拡大に係る取組を推進**。

ア 高品質酒米の安定生産

温暖化等の影響による酒米の品質低下に対応するため、衛星データ等を活用した栽培管理の最適化と**穂肥診断及び刈取適期診断アプリ等を活用**した品質向上技術の実証ほを県内15か所に設置し、品質向上に向けた施肥技術等の改善を促進。

イ 県産酒米及び日本酒の需要の拡大

国内の日本酒需要は減少傾向にあるが、海外では日本食ブームを背景に日本酒の輸出が拡大。

本県では、県内酒蔵の**輸出向け商品の開発と海外コンクール等への出品を支援**するとともに、**海外バイヤーを県内酒蔵に招き、直接商談する取組を実施**。

ウ 有機等酒米を使用した日本酒の推進

令和4年10月の日本酒の有機JAS認証制度の開始を踏まえ、日本酒の有機JAS認証取得に必要な知識の取得と対応策を検討するための研修会の開催や**有機等こだわり日本酒の先進的な取組の支援**により県産酒米・日本酒のブランド力を強化。

《山田錦穂肥診断アプリ》

スマートフォンで撮影した画像から生育量を推定し、最適な穂肥量を計算するアプリ「RiceCam 山田錦」を県立農林水産技術総合センターが開発。



《海外バイヤーとの商談》

海外プロモーションによりアプローチした海外バイヤー2社（デンマーク及びベトナム）が、県内7酒蔵を訪問し、商談。

【訪問酒蔵：7社】

剣菱酒造、狩場一酒造、山名酒造、田治米酒造、富久錦、岡田本家、茨木酒造



<デンマークバイヤーの県内酒蔵訪問>

II 農作物の生産振興方策と取組

(3) 麦

国産小麦の需要が拡大する中、菓子・パン用、製麺用、醤油用、麦茶用などそれぞれの用途に応じた品種選定や基本技術の励行など栽培管理の徹底により、**実需者ニーズを的確に捉えた生産振興・拡大を実施。**

ア 安定した品質を確保するための栽培技術の確立と品種選定

用途により品種や栽培方法が異なることから、用途別に計画生産量を確保できるように高タンパク化に対応した省力施肥体系の実証や排水対策、土づくりなどの基本技術の徹底による品質や収量、収益性の向上を推進。

イ 食品産業と連携した産地づくりの推進

JAや県内の製粉業者等と連携し、実需者ニーズの把握と産地情報の発信に努め、産地と実需者との結びつきを一層強化して、産地づくりを推進。

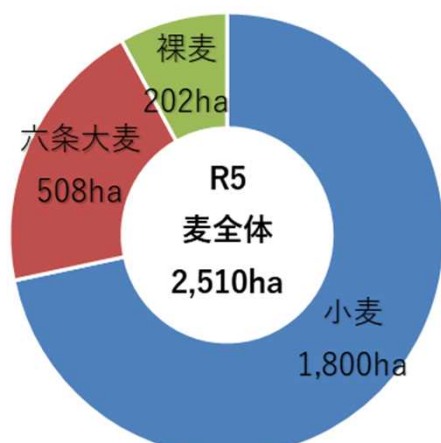
《令和5年度全国麦作共励会》

全国米麦改良協会会長賞受賞
 < 中谷農事組合法人（豊岡市） >



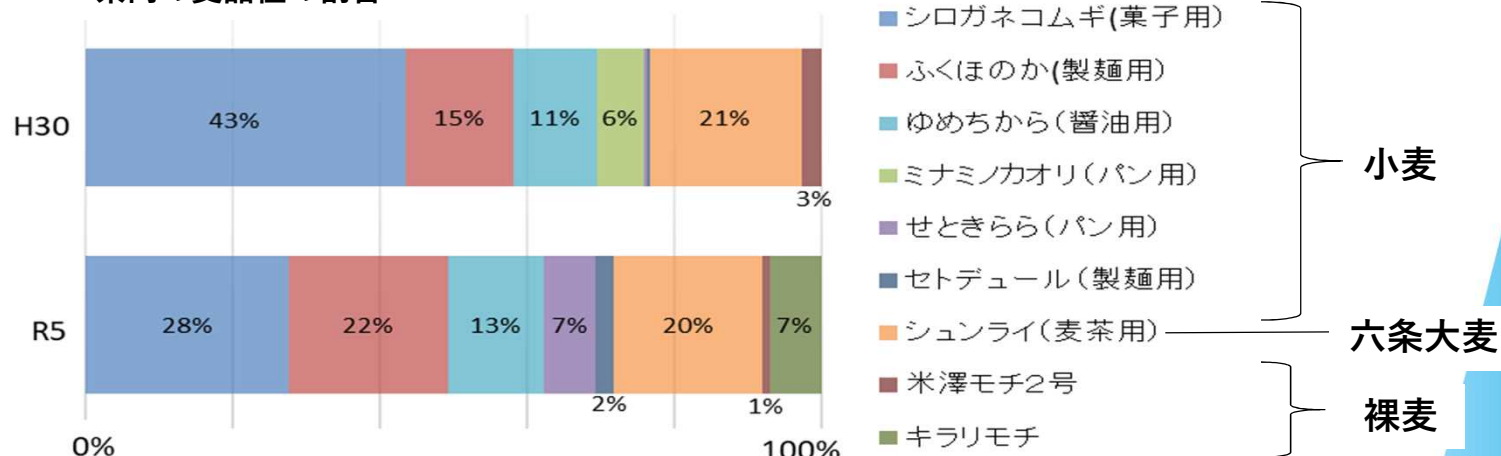
実需者の要望に応え、「ひょうご安心ブランド」の認証を受け、環境に配慮した安心安全で高品質な小麦を生産（R5 単収390kg/10a、1等62.5%）。

< R5麦の作付面積 >



※農林水産統計（農林水産省調べ）

< 県内の麦品種の割合 >



※農産園芸課調べ

II 農作物の生産振興方策と取組

(4) 大豆

煮豆用、豆腐用、味噌用、醤油用など、**多様な用途に応じ、安定した供給**が出来るように新たな技術や機械化による省力化を進めるとともに、食品産業が求める高品質大豆の生産を振興。

ア 黒大豆の安定生産と需要拡大

「丹波黒」の生産拡大を図るため、県・市町やJA、流通・加工業者等で構成する兵庫県丹波黒振興協議会が中心となり、①優良系統を使用した大粒で粒ぞろいの良い生産や収量向上、②ドローン等を活用した作業の省力・効率的な生産、③食味や機能性等の情報発信など、安定生産及び需要拡大を目指した取組を推進。

《「兵系黒6号」を丹波黒優良系統に位置づけ》

多収かつ病害に強い新品種として丹波黒在来系統から選抜され、令和5年3月に品種登録出願された「兵系黒6号」の試食会を、令和5年度兵庫県丹波黒振興協議会総会（令和5年5月）において実施。

兵庫県産丹波黒の優良系統の1つである「兵系黒3号」と比較して、外観・食味とも遜色ないことから、「兵系黒6号」を丹波黒優良系統に位置づけることを承認。



試食サンプル



丹波篠山市で令和5年から一般栽培を開始

イ 白大豆の実需者ニーズに対応した生産と生産技術向上

実需者ニーズに応えるとともに、地域の気象条件に適した大豆品種の選定・普及を図りつつ、狭条密植栽培※など低コスト生産で収量と品質の向上に向けた対策を実施。

※ **狭条密植栽培**：通常より条間を狭く密植することで、雑草抑制、倒伏防止等の効果。

II 農作物の生産振興方策と取組

(5) 優良な品種の普及（水稻・麦・大豆）

主要農作物種子生産条例（平成30年4月制定）に基づき、**本県に適した水稻・麦・大豆品種の優良種子を安定的に供給。**

ア 奨励品種の選定と指定

県は、国や県等が育成した水稻・麦・大豆の品種・系統を県立農林水産技術総合センターや現地ほ場で栽培し、品種特性や栽培適性等を調査している。**普及性・市場性等を勘案し、県が積極的に普及・奨励すべき優良な品種を「奨励品種」に指定。**

イ 優良種子の安定生産（原原種、原種生産及び種子生産）

主要農作物種子生産条例に基づき、奨励品種に指定した品種の特性を維持しつつ、優良種子を安定供給。

<兵庫県における奨励品種一覧>

作物名	区分	種類	品種数	品種名
水稻	基幹※1	水稻うるち	4	コシヒカリ、キヌヒカリ、ヒノヒカリ、きぬむすめ
	特定※2	水稻うるち	5	どんとこい、五百万石(酒)、兵庫北錦(酒)、兵庫夢錦(酒)、山田錦(酒)
		水稻もち	2	ヤマフクモチ、はりまもち
麦類	基幹	小麦	1	シロガネコムギ
	特定	小麦	1	せときらら
	特定	六条大麦	1	シュンライ
	認定※3	小麦	2	ふくほのか、ゆめちから
大豆	基幹	白大豆	1	サチユタカA1号
	認定	白大豆	1	夢さよう

《種子生産の流れ》

主要農作物種子生産条例に基づく種子生産

原原種生産（3年前）

県立農林水産技術総合センターで生産

原種生産（2年前）

種子生産（1年前）

県下9つの種子組合で生産

一般栽培

(一社)兵庫県農作物改良協会を通じて生産者に種子配布

- ※1 品質、収量性、栽培性が優秀かつ広域適応性が高いため県が普及を促進する必要がある品種。
- ※2 品質、収量性、栽培性に優れているが、広域適応性が高いとは認められないため特定の地域、特定の用途又は契約栽培に適するものとして基幹奨励品種に準じて県が普及促進する品種。
- ※3 基幹奨励・特定奨励品種に準ずる収量性及び栽培性を有するが、品質、適応地域の範囲、又は市場性に未確定の事項があるため、暫定的に県が普及する品種。

II 農作物の生産振興方策と取組

(6) 農産物検査

農産物検査法に基づく**地域登録検査機関の登録及び監視業務により、流通する米・麦・大豆等の品質の確保及び取扱いの適正化**を実施。

ア 地域登録検査機関数（地域別）（令和6年6月末時点）

神戸	阪神	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	合計
8	2	6	14	3	4	9	9	4	59

イ 地域登録検査機関への指導等

(ア) 登録事務

検査機関としての適合性を審査し、登録手続きを実施。

【R5実績】

- ・登録更新[5年ごと]7件
- ・変更登録2件
- ・登録事項変更届出21件
- ・業務規程変更届出24件

(イ) 立入調査

検査機関の事務所や事業所に立ち入り、検査の状況、関係書類等を調査し、農産物検査法に基づく適正な運用を確認。

【R5実績】

- ・事務所への立入調査10箇所
- ・検査場所への立入調査11箇所



検査場所の立入調査（淡路市）

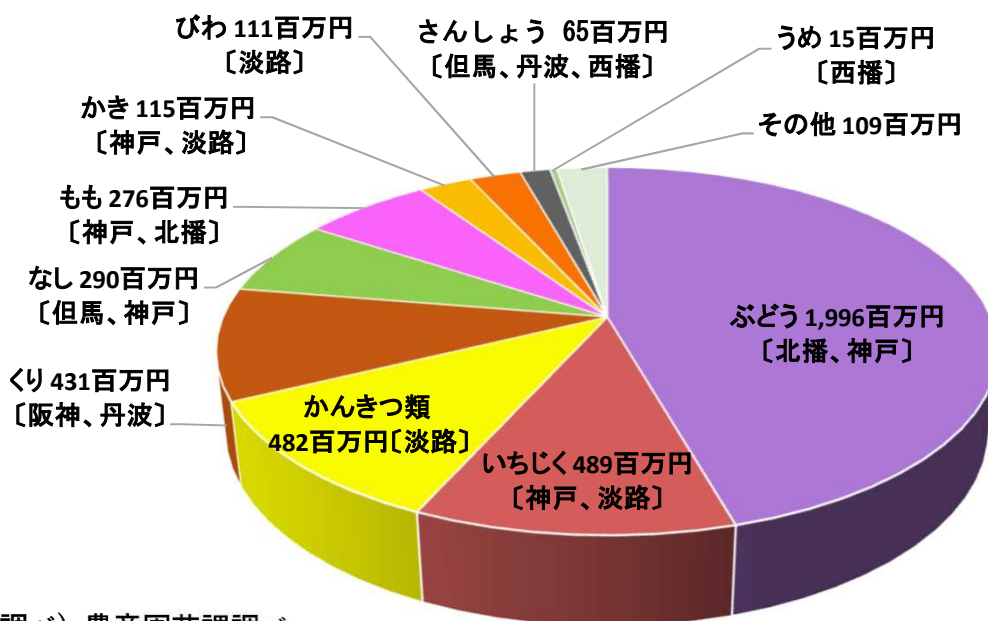
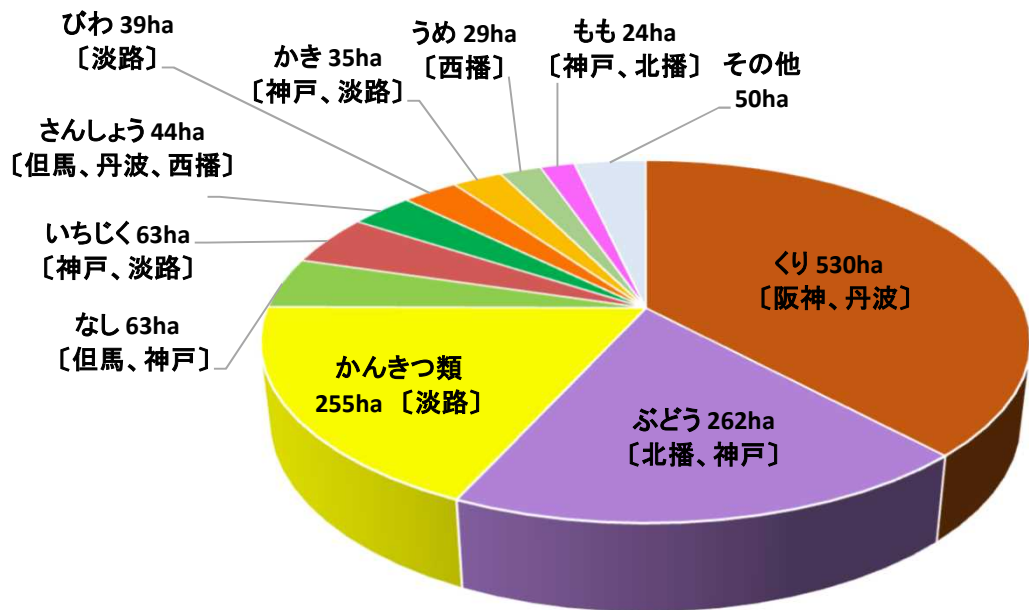
II 農作物の生産振興方策と取組

3 果樹・茶

全国上位品目のいちじくなど、都市近郊の立地条件を最大限に活かし、産地ごとの販売戦略を明確化しながら、供給量の拡大と消費者が求める高品質な果樹・茶の生産を推進。

果樹栽培面積(令和4年) 1,394ha

果樹算出額(令和4年) 4,400百万円



※ 農林水産省統計(農林水産省調べ)、農産園芸課調べ

(1) 「果樹産地構造改革計画」による果樹産地の活性化

「兵庫県果樹農業振興計画」(令和3年3月策定)に基づき、県内主要産地が目指す姿を定める「果樹産地構造改革計画」(14産地策定)を策定し、優良品種の新植・改植や園地整備など各産地の維持・拡大の取組を支援。

令和5年度は、**ぶどうやくりの新植・改植にあわせて、灌水設備や防風設備の導入など園地整備を支援。**

【R5実績】ぶどう3地区、くり1地区、なし1地区、もも2地区



ぶどうの防風設備の導入(丹波市)

II 農作物の生産振興方策と取組

(2) 高品質な果実生産の推進

ア 研究大会による生産技術の向上

先進事例等から新たな技術を学び、生産者が相互に交流を深めるため、品目別の研究大会を開催し、県内果樹産地の維持・発展を支援。

イ 西日本一を目指したいちじく産地づくり

いちじくは都市近郊の立地が活かせる収益性の高い果樹として、川西市などで古くから生産。いちじくの生産拡大を支援し、西日本一を目指す産地づくりを推進。

生産者団体や県で構成する兵庫県果樹研究会との連携により、**県開発技術（オーバーラップ整枝法※等）の普及啓発や、病害虫に強い台木の導入等の実証ほを設置**し、作付面積の拡大や出荷量増大に向けて産地を支援。

※ オーバーラップ整枝法：幹を片側の一方向に伸ばして、隣接する樹に重ねる樹形の整枝法。凍害回避や着果安定等の効果。



オーバーラップ整枝法

ウ 中国における火傷病の発生に伴う対応

なし、りんご等の重要病害である火傷病の発生が令和5年8月に中国において確認され、中国からの花粉が輸入停止。

そのため、中国産なし花粉を利用していた生産者に、自家採取を促すための花粉採取マニュアルを作成・配布するとともに、**北部農業技術センターで採取した花粉を配布**。

(3) 県内茶産地の振興

「丹波篠山茶」「母子茶」など県内茶産地の振興を図るため、県や生産団体で構成する兵庫県茶振興協議会が中心となり、県茶品評会や研修会の開催を通じて、生産技術向上や、需要開拓の取組等を支援。

《4年ぶりに県茶業振興大会を開催》

令和5年9月に、県内の生産者が集まり、「販路開拓と売れる仕組みづくり」と題した講演において、茶の需要開拓や地域の特長ある商品づくりについて学んだ。



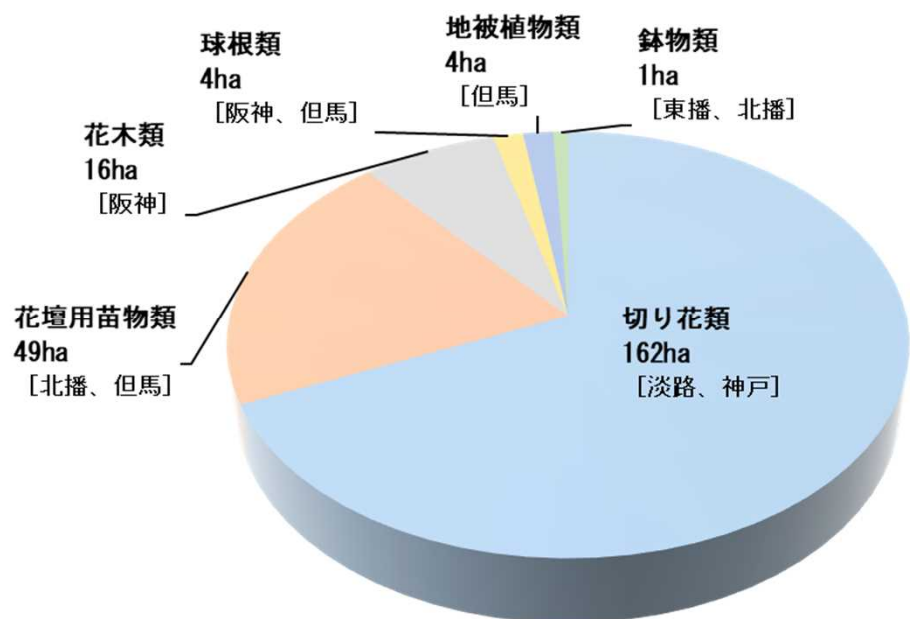
兵庫県茶業振興大会での講演
(丹波篠山市)

II 農作物の生産振興方策と取組

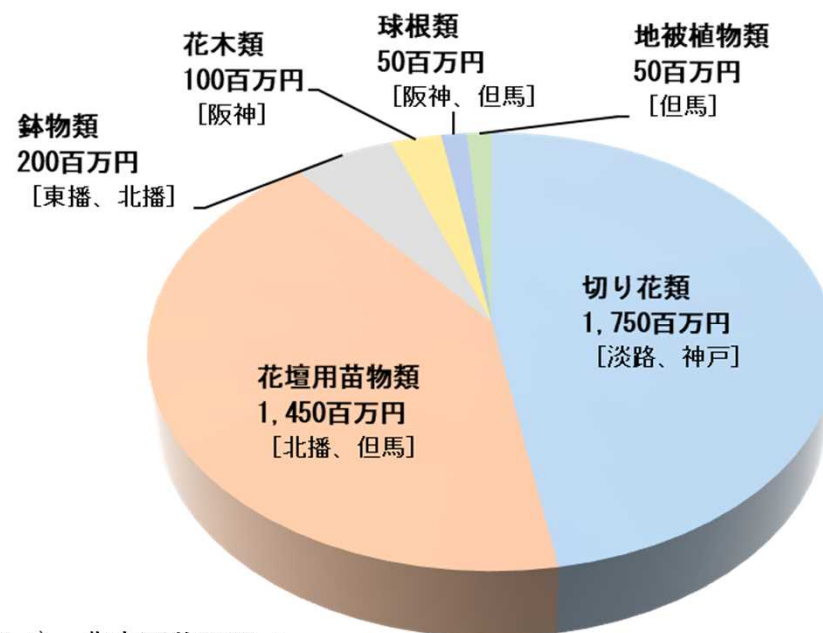
4 花き

生花、フラワーアレンジ、ガーデニングなど多様化する消費者ニーズに対応するため、新鮮・多彩・個性豊かな「兵庫の花き」への生産支援や、県民が花とふれあう機会を創出・増大させる拠点整備推進など花のあるライフスタイルの普及や景観園芸を推進。

花き・花木類等栽培面積（令和3年） 236ha



花き・花木類等産出額（令和3年） 3,600百万円



※農林水産省統計(農林水産省調べ)、農産園芸課調べ

(1) ひょうご花き振興方策の策定・推進

県産花きの生産拡大のための具体的な行動計画として策定した「**ひょうご花き振興方策**」（令和3年3月策定）に基づき、**生産振興と需要創出の双方から施策**を進め、花き産業の好循環を図ることにより、花きの安定生産、県産花きの消費拡大などを推進。

II 農作物の生産振興方策と取組

(2) 花きの安定生産の推進

作業の省力化や品質の高い花きの安定生産が図られるよう、各産地への**施設整備や機器の導入、新品種の試作などを支援**。

さらに、近年の気象変動に対応した高温対策技術の開発・普及を推進。

《施設園芸生産者に省エネ機器の導入を支援》

カーネーション、花壇用苗物など冬の加温を必要とする施設園芸生産者は、燃料価格高騰を受けて生産コストの負担が大きかった。

このため、短期的な経費節減だけでなく、長期的な省エネの視点からも、燃油を利用せず電気によって加温できるヒートポンプや施設内温度の維持に有効な二重カーテン等の導入を支援。

【R5実績】 11件



内張カーテンを増設して二重カーテンにしたハウス（神戸市）

(3) 本県産花きの需要拡大

県、県花卉協会、県内生花市場、生花業団体等で構成する兵庫の花づくり推進協議会が中心となり、生花業者等実需者や消費者への県産花きPRを支援することにより、県産花きの認知度向上、需要拡大を推進。

《県産花きを実需者・消費者にPR》

「第34回兵庫県花き品評会(秋の部)」を神戸市中央卸売市場東部市場で開催。

審査会後は、市場近隣のフラワーショップにおいて、**農林水産大臣賞を受賞した宝塚市産ダリアをはじめ出品花きの展示・即売会を開催**し、消費者に県産花きをPR。



フラワーショップでの展示会・即売会（神戸市）

II 農作物の生産振興方策と取組

(4) 花のあるライフスタイルの普及

兵庫の花づくり推進協議会による県産花きの即売、モニュメント展示、寄せ植え体験等を行うイベント「ひょうごの花キャンペーン」の商業施設内での開催のほか、花育活動など花のあるライフスタイルの普及推進の取組を支援。

《兵庫の花づくり推進協議会による花育活動》
フラワーアレンジメント教室等を実施し、子供から大人まで幅広い年代の県民が優しさや美しさを感じる気持ちを育むことや**家庭に花を飾る等の意識醸成を推進。**

【R5実績】 延べ15回開催（526人参加）



フラワーアレンジメント体験
(明石市)

(5) 花とふれあう憩いの場の提供

県立フラワーセンター（加西市）やあわじ花さじき（淡路市）の施設運営などを通じて、県民が花とふれあう機会を広げることにより、景観園芸を推進。

《花と光のクリスマスの開催》

県立フラワーセンターには大温室や大小様々な花壇や樹木園があり、県民に花と緑の憩を提供。

令和5年12月に行った「花と光のクリスマス」では、中央花壇、大温室内のライトアップを実施し、過去最高の16,000人が来園。



花と光のクリスマス

(6) ウメ輪紋病からの植木、花木苗、盆栽産地の再生支援

平成24年7月にウメ輪紋病の発生が確認され、植物防疫法により緊急防除区域に指定された地域において、「兵庫県ウメ輪紋病対策基本方針」（平成27年5月策定）に基づき、南京桃に用いられる希少品種等の母樹保存・管理の指導や、平成28年から再植栽が認められた**果実用ももの植栽の取組(川西市)を支援。**

また、緊急防除区域の指定が令和2年度末で解除されたことから**ウメやモモの盆栽類の生産再開の取組(伊丹市)を支援。**

II 農作物の生産振興方策と取組

5 農業機械・生産資材対策

(1) 農業機械の効率的活用と農作業安全対策

認定農業者や集落営農組織の農業機械オペレーターなど、地域農業を支えている農業者に対して、農業機械の高性能・大型化に対応した利用技術の向上と農作業安全対策を推進。

ア 農業機械利用技能者の育成と大型特殊自動車免許の取得推進

大型機械を扱う農業者等を対象に、指導農業機械士※1、農業機械士※2を認定することで、農業機械の操作や整備技能等の向上を促進。

また、大型特殊自動車運転免許の取得を進めるため、兵庫県農業機械化協会主催の農業用大型トラクター技能講習会の開催回数を増やすことや、民間教習所と連携した講習会の開催等を促進。

※1 集落営農組織等における農業機械作業の指導者として活動するために必要な知識・技能を有する者（R6.3現在 280名）

※2 機械の点検整備や安全な操作を行うために必要な知識・技能を有する者（R6.3現在 1,979名）



農業用大型トラクター技能講習会（豊岡市）

イ 農作業安全対策の推進

県内で農作業死亡事故が年間約10件発生している中、農作業事故の撲滅に向け、県内各地で市町・JA等と連携した農作業安全講習会や啓発を実施しているほか、農作業安全指導技能向上研修会を開催し、農作業安全指導者を育成。

〈農作業安全指導技能向上研修会 参加者数の推移〉

年度	H30	R3	R4	R5
参加者数	79	48	67	87

※R1、R2はコロナ禍により開催中止

ウ 中古農業機械の有効活用と流通の促進

農業者の農機具費の低減等につながるよう農業機械関係団体が主催する「兵庫県中古農業機械フェア」の開催を支援。

市町等と連携し、本フェアの周知等を通じて、中古農機の有効活用を促進。

【R6開催実績：成約台数185台、成約金額88,712千円（過去最高）】



R6 中古農業機械フェア（上郡町）

II 農作物の生産振興方策と取組

(2) 肥料の品質保全と公正な取引の確保

肥料の品質の確保等に関する法律に基づく**肥料の登録、届出の受理や必要に応じて立入検査を行い、品質を確保するとともに、その公正な取引と安全な施用を確保。**

【R5実績】 肥料登録：13件 登録更新：27件 届出受理：64件

(3) 肥料・燃油価格高騰対策の実施

ア 施設園芸の省エネルギー対策

経営費に占める燃料費の割合の高い施設園芸において、農業者と国の拠出により資金を造成し、省エネ計画を策定した農業者に対して、A重油や灯油等の冬期の暖房用燃料の価格高騰時に、補填金を交付するセーフティネット対策を実施。

○支援対象：14産地

○令和5事業年度補填金：39,944千円



イ 国内資源由来肥料の利用拡大

畜産業由来の堆肥や下水汚泥資源等を活用した肥料の利用拡大を進めるため、原料供給事業者、製造業者、農業者等の連携した取組を支援。

(1) 広域流通に必要な施設整備等やペレット造粒設備の導入

(2) ほ場での効果実証や散布機械等の導入

【R5実績】 整備支援 1カ所（国庫補助：89,633千円）



R5に整備したペレット造粒設備
（神戸市）

III スマート農業の推進

1 「ひょうごスマート農業推進方針」(令和2年1月策定)の推進

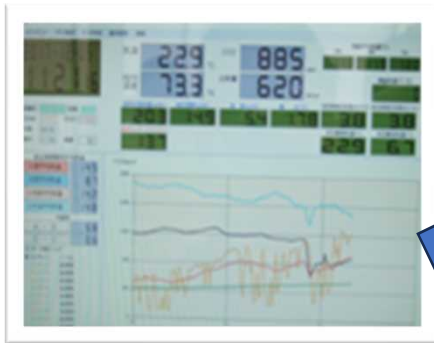
担い手の減少や高齢化の進行を踏まえ、生産性の向上や高品質化を図るため、ICT等の先端技術を積極的に活用したスマート農業の普及・定着を推進。

I 兵庫型スマート農業技術の実証・開発

①国や民間等が開発した技術

新技術の現場実証により導入効果・費用対効果の検証や利用の改善提案を行い、本県の多様な営農条件に適合した産地営農技術体系を確立

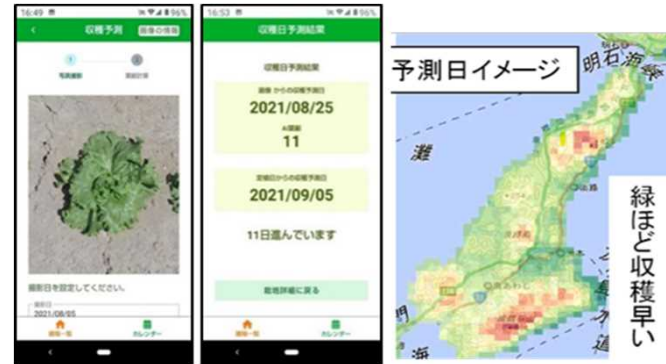
<事例：高度な環境制御技術の導入>
ハウス内の気温・CO2濃度
・湿度・日射量等の見える化



②県立農林水産技術総合センター独自の研究・開発

本県特産物の高品質化、収量向上等に寄与する技術や既存機器を利用した低価格なアタッチメント開発などを推進

<事例：レタスの生育出荷予測アプリ>
ドローンやセンシング技術を活用したレタスの栽培管理
効率化・安定生産技術の開発



II
各種支援施策を活用した
技術の普及定着支援

III 情報発信の強化

「次世代施設園芸団地」等を拠点にした研修や農機メーカー等と連携した実演会の開催

IV 技術習得機会の充実

農業大学校や兵庫楽農生活センターで技術習得のためのカリキュラム設定や実習機械等の導入

V 支援体制の強化

スマート農業の相談・指導に対応するため、普及指導員などの知識・技術を向上

スマート農業を進めるための基礎インフラ整備（ほ場の大区画化、ハウスの導入等）

兵庫型スマート農業技術の普及・定着

III スマート農業の推進

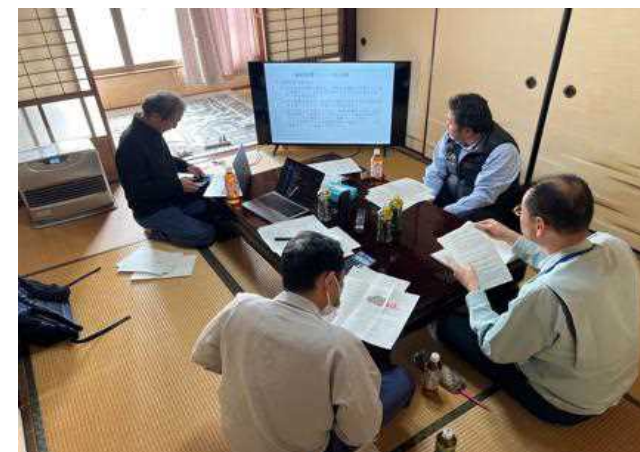
2 土地利用型農業のスマート農業技術の普及・定着

(1) スマート農業機械等のシェアリングの推進

価格が高いスマート農業機械等を個別の経営体で導入すると生産コストが割高。このため、**スマート農業機械等を産地に適した形態でシェアリングを支援し、産地で広域的に低コスト化を推進。**

(2) 技術の普及の核となる人材の育成

県立農林水産技術総合センター研究員やメーカー技術者、先駆的農業者等を講師に、普及性の高い**ドローンと栽培管理システムの導入計画の立案から実際の生産現場でフル活用する方法を体系的に学ぶ研修会を開催し、各地域で、スマート農業の推進の核となる人材を育成。**



リモコン草刈機のシェアリングの検討
(洲本市)

【土地利用型農業におけるスマート農業技術の種類別導入状況（R5年度実績）】

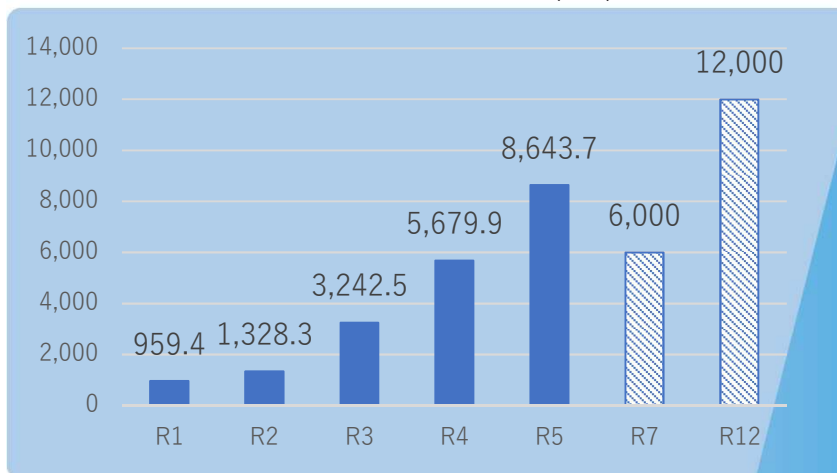
全体で8,643.7haと昨年度実績5,679.9haから大幅に(2,963.8ha)増加している。特にドローンや高性能トラクターの活用が進んでいる。

< R 5 技術別内訳 (ha) >

ドローン	田植機	トラクター	コンバイン	リモコン草刈機	その他	計
4,542.9	955.2	1,172.1	498.9	387.7	1,086.9	8,643.7

※農産園芸課調べ

< スマート農業導入実績推移 (ha) >



※農産園芸課調べ R7及びR12 は目標値

III スマート農業の推進

3 施設園芸における環境制御技術の普及・拡大

ICTや栽培管理の自動化などスマート技術を活用した施設園芸（スマートハウス）の推進により、施設野菜等の生産性向上と省力化を推進。

(1) 施設・機器の導入支援

施設・機器の導入支援として、**環境制御機器を備えたハウスの新設だけでなく、環境制御技術導入の前段となる環境測定から取り組めるよう、モニタリング機器単体の導入も可能とすることでスマートハウスの取組を拡大。**

(2) 環境制御技術の習得支援

ア 研修会等の開催

作物の生育に適した環境制御技術を習得するため、環境制御機器メーカーの技術者を講師に招いた研修会等を開催。

イ 「次世代施設園芸団地」を拠点とした普及啓発

環境制御技術の先導的かつ大規模な取組である「**次世代施設園芸団地**」において**研修や視察の受入等を実施し、次世代を担う人材を育成。**

【次世代施設園芸団地】(H27整備)の概要】

- ① 生産品目：トマト(栽培面積3.6ha)
- ② 所在地：加西市鶉野（うずらの）町・野条町
- ③ 運営主体：株式会社 兵庫ネクストファーム
- ④ 従業員数：正社員8名、パート等約100名
- ⑤ 施設の暖房に木質チップを利用（脱炭素にも寄与）



センサーによるハウス内の測定
(神戸市)



環境制御技術導入施設での研修
(宍粟市)

○ 環境制御技術の普及状況（R6.3末時点）

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R12目標値
面積 (ha)	18.9	20.3	22.5	26.1	28.1	60

※農産園芸課調べ